

# 年報 (No.23)

令和7年4月～令和8年3月の活動記録

2025.4-2026.3

和歌山県立医科大学

血液内科学講座

# 目次

- 1 あいさつ
  
- 2 教室現況
  - (1)教室員
  - (2)人事異動
  - (3)ローテート研修医一覧
  
- 3 スケジュール表
  - (1)医学部生の病棟臨床実習
  - (2)臨床実習授業評価
  - (3)血液内科診療の医師勤務表
  - (4)5階西病棟の当直医表 (3月)
  
- 4 主な活動内容
  - (1)学会 (国際、全国、地方)
  - (2)学術論文 (和文総説、英文原著、和文・英文症例報告、レター)
  - (3)受賞歴
  - (4)著書 (単行本、シリーズものを含む)
  - (5)研究費、助成金
  - (6)その他
  
- 5 診療実績 (外来・入院患者数、疾患別分類、死亡、剖検)
- 6 リーダーレポート (病院教授、准教授、助教、看護師長、輸血部主任)
- 7 寄稿文
- 8 行事写真
- 9 研修医写真

## 1 あいさつ

前評判は芳しくなかった大阪万博が盛況のうちに終了した。関係者の皆さんが批判に応えつつ努力された結果だと思う。開催直後の岸本周平知事の急逝には驚いた。

今年度は小西朋樹君が入局した。誠実な人柄で将来が楽しみである。蒸野寿紀講師は地域医療支援センターの教授に昇任した。高齢化が加速度的に進行し働き手不足が深刻化する中、彼の熱意が人や制度を動かすと期待している。村田祥吾講師、細井裕樹講師は准教授に昇任した。各々、医局長、病棟長として血液内科の医局運営・診療の柱である。小浴秀樹助教は研究主任、吉田菊晃助教は副病棟長、田畑翔太郎助教は外来医長として活躍している。学内外の医局員の皆さん 1 人 1 人が「和医大血内」の看板を背負って診療に励んでいることに感謝している。ぜひ、医局員の皆さんには「敷居の低い血内」「困ったときに何でも相談にのってくれる血内」を今後とも実践していただきたい。

診療では、CAR-T 療法・二重特異性抗体といった免疫細胞療法が盛んである。当科は県内唯一の同種造血幹細胞移植・CAR-T 療法が施行できる医療機関であり、適応患者さんに遅滞なく当該治療を行えるように努めたい。そのためにはベッド管理・マンパワーが重要であり、関係各所の協力を求めたい。

研究は大切である。本学生化学教室や生体調節機構分野との共同研究は新しい視点で臨床を見つめなおす機会になっている。今後も本学基礎医学講座の指導を仰ぎつつ、お互いの刺激になればと思っている。新たな診療エビデンスの構築には解析数が重要であり、多施設共同研究や治験に参加して当教室の存在をアピールしたい。

学生教育では臨床実習を重視している。症例を通じて深く広く学んでほしいからである。実習生と MGH 症例検討会を行っているが、検討会の最後に関連する医師国家試験問題を解くようにした。初期研修医は 22 人がローテートした。内科専門医は 3 人（天野、寺本、太根）、血液専門医は 4 人（岡村、榊、武田、吉田）が取得した。田畑翔太郎院生が医学博士号を取得した。ハーバード大学に留学した橋本（旧姓：岡部）友香さんが年度末に帰国した。益々の活躍を期待している。

2026 年 3 月 14 日に同門会の「紀杏会」総会が住金棟で行われた。OB の綿貫樹里先生、大岩健洋先生が参加してくれた。3 月 28 日には「第 9 回移植患者・家族のつどい」が住金棟で開催された。人間が持っている利他的な心を感じることができ、元気をもらえた。

最後に、HCTC の山本梨奈さんが 2 月に亡くなった。ご冥福を祈りたい。看護必要度が常に 30%以上である 5 西病棟を支えて頂いている内垣亜希子師長・スタッフの皆様、何とか踏ん張って頂いている外来スタッフの皆様、輸血・移植・CAR-T を支えてもらっている堀端容子主任・輸血部の皆様、医局運営の要となっている土谷波花さんに感謝申し上げます。

2026（令和 8）年 3 月吉日

園木 孝志

## 2 教室現況

### (1) 教室員

医局	教授	園木 孝志	
	准教授	村田 祥吾	
	准教授(輸血部)	細井 裕樹	
	助教	田中 颯	(2025.6月30日まで)
	助教	小浴 秀樹	
	助教	田畑 翔太郎	
	助教	吉田 菊晃	
	学内助教	榊 絢朱	(2025.9月30日まで)
	学内助教・大学院生	岡村 雅	
	学内助教	寺本 寛	(2026.3月31日まで)
	学内助教	谷河 育朗	(2025.4月1日から)
	学内助教・大学院生	太根 美聡	(2025.4月1日から)
	学内助教	松本 藍	
	学内助教	曾我部 槇子	(2025.6月30日まで)
	非常勤医師	小西 朋樹	(2025.4月1日から)
	医局秘書	土谷 波花	
輸血部	主任	堀端 容子	
	主任	中島 志保	
	主査	富坂 竜矢	
	主査	近田 華帆里	(2026.2月1日から)
	副主査	山本 裕也	
	医療技師	玉置 綺良理	(2026.1月31日まで)
	HCTC	山本 梨菜	(2026.3月31日まで)

## (2) 人事

### 役職変更

准教授	村田 祥吾	(2025.4月1日～)
准教授	細井 裕樹	(2025.4月1日～)
助教	田畑 翔太朗	(2025.7月1日～)
助教	吉田 菊晃	(2025.7月1日～)

### 採用

学内助教	谷河 育朗	(2025.4月1日～)	那智勝浦町立温泉病院から
学内助教	太根 美聡	(2025.4月1日～)	紀南病院から
非常勤医師	小西 朋樹	(2025.4月1日～)	
輸血部 主査	近田 華帆里	(2026.2月1日～)	

### 異動・退職

助教	田中 顕	(～2025.6月30日)	紀南病院へ)
学内助教	榊 絢朱	(～2025.9月30日)	公立那賀病院へ)
学内助教	寺本 寛	(～2026.3月31日)	新宮市立医療センターへ)
学内助教	曾我部 槇子	(～2025.6月30日)	紀南病院へ)
輸血部 医療技師	玉置 綺良理	(～2026.1月31日)	中央検査部へ)
HCTC	山本 梨菜	(～2026.3月31日)	退職)

### (3) ローテート研修医一覧

2025年4月から2026年3月まで当科をローテートしてくれた初期研修医

#### ・1年目

名前	期間
寺坂 晴香	4月から6月
新田 彩乃	4月から6月
宮本 ありさ	4月から6月
山路 千咲	4月から6月
渕脇 颯太	7月
秋葉 弘貴	8月
中西 暖	8月
岡 はるか	8月から9月
殿山 宥樹	9月
吉井 稜真	9月
吉増 壱彩	9月
橋本 朋佳	10月
高橋 徹	11月
北田 桃香	12月
山城 博雅	12月から1月
奥野 太暉	2月
辻 真優	3月

#### ・2年目

石井 宏弥	7月
武内 簾	7月、3月
宮崎 皓平	7月
西野 慧	1月
東 大豊	2月

皆さん、大変熱心でした。

血液内科での経験が今後のキャリアに役立つことを祈念しています。

園木 孝志

### 3 スケジュール表

- (1) 医学部生の病棟臨床実習
- (2) 血液内科診療の医師勤務表
- (3) 5階西病棟の当直医表 (3月)  
(1) - (3) は次ページ以降に収録。

#### (4) 医局行事

##### (4)-1 週間

- 月曜日 医局会 (連絡事項・スケジュール確認)、チャートカンファレンス
- 火曜日 病棟回診、リサーチカンファレンス(隔週)
- 木曜日 カンファレンス (MGH)、HIV カンファレンス

##### (4)-2 月間

- 病理合同カンファレンス
- 移植カンファレンス
- 症例検討会
- 診療会議

## (1) 医学部生の病棟臨床実習

第1週目		<b>血液内科</b>									
集合場所：研究棟 10 階 血液内科医局（内線：5453） <u>総括の後、レポートを訂正し、血液内科医局の協議机に提出すること。</u> <u>（訂正したレポートを提出しない場合、実習を履修しなかったと判断する。）</u> コピー機は医局にあります。両面コピーしてください。 ※医局 PC や医局コピー機への USB 接続は不可です。											
日付	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
① (月)	(他科)					(他科)					
① (火)	(他科)					(他科)					
① (水)	(他科)					13:30- オリエンテーション (園木教授) 医局		症例学習			
① (木)		9:00- ※外来・内科診察 (園木教授) 中央棟 3 階 血液内科外来				症例学習		14:30-16:00 輸血部実習 中央棟 3 階 輸血部		症例学習	
① (金)		鏡検実習 医局				進級試験復習					

1. 「※外来・内科診察」は随時、疾患について討論を行う（園木）
2. 自発性、判断、コミュニケーションの能力を評価する。
3. 病棟での患者診察は、マスク着用の上、15分以内で終了する。

第2週目

血液内科

集合場所：研究棟 10 階 血液内科医局（内線：5453）

総括の後、レポートを訂正し、血液内科医局の協議机に提出すること。

（訂正したレポートを提出しない場合、実習を履修しなかったと判断する。）

コピー機は医局にあります。両面コピーしてください。

※医局 PC や医局コピー機への USB 接続は不可です。

日付	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
② (月)		9:00- レポート進捗 状況報告 (園木教授) 医局		症例 学習				症例学習		16:00- チャート カンファレンス 5 西 CR
② (火)		8:45- 入院患者回診 5 西病棟 <u>回診後直ちに外来へ</u>	※外来・内科診察 (園木教授) 中央棟 3 階 血液内科外来					症例学習		
② (水)			症例学習			13:20- 14:20 血球形態 (園木教授) 教授室		15:00-16:00 骨髓生検 シュミレーション (蒸野教授(地域医療支援 センター)・田畑助教) 5 西 CR		症例学習
② (木)	8:00-8:30 カンファ レンス (cc/MGH) 医局		9:00- ※外来・内科診察 (園木教授) 中央棟 3 階 血液内科外来			症例学習		15:00-16:00 HIV 感染症 (園木教授) 5 西 CR		症例学習
② (金)		症例学習						症例学習		16:00-17:00 総括/レポート 提出 (園木教授) 5 西 CR

## (2) 令和7年度 臨床実習授業評価

(回答者数) 89 人

質問項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	総合	12	13	14	15	16
血液内科学	4.52	4.57	4.51	4.44	4.53	4.39	4.58	4.51	4.54	4.55	4.57	4.52	4.43	4.33	4.36	4.34	4.42
全体平均	4.19	4.37	4.26	4.26	4.23	4.14	4.35	4.30	4.29	4.39	4.40	4.29	4.26	4.11	4.12	4.16	4.23

総合	質問項目 1~11 の平均
	質問項目 1~11 の内、最大値
	質問項目 1~11 の内、最小値

【質問内容】 (まったく思わない①……②……③……④……⑤とも思う)

### A 指導医について

- 1 指導医と討論する時間が充分にあった。
- 2 親切に接してくれた。
- 3 問題点を見つけるよう適切に指導してくれた。
- 4 時間を厳守するよう適切に指導してくれた。
- 5 実習中の最終目標を明確に示してくれた。
- 6 毎日の目標を示してくれた。
- 7 医学的知識について適切に指導してくれた。
- 8 医学的技術について適切に指導してくれた。
- 9 知識・技術について誤りがあった場合、注意や指導をしてくれた。

### B セミナーについて (行われなかった場合は記入不要)

- 10 よく準備された教材を使用してくれた。
- 11 病態との関連について適切に説明してくれた。

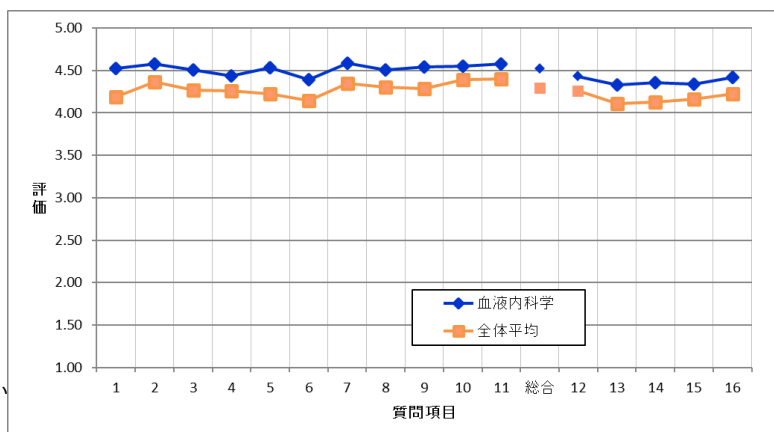
### C 自己評価

- 12 知識が増えた。
- 13 基本的技能ができるようになった。
- 14 診断・治療の選択が可能になった。
- 15 症例の提示(発表)ができるようになった。

### D 臨床実習の総合的評価

(悪い①……②……③……④……⑤良い)

- 16 臨床実習を総合的に評価してください。



【その他、意見があれば自由に記載してください。(任意)】

- ・担当医の先生が毎日丁寧に指導してくれた。
- ・血液内科の総合的な復習になりました。空き時間とセミナー時間のバランスもちょうど良いと思います。

### (3) 血液内科診療の医師勤務表

#### 診療担当医

2026.01.05~

	月	火	水	木	金
診察室 (1)	村田	園木 (新患①②)	蒸野	園木 (新患①②)	園木 (9:00-12:00)
診察室 (2)	小浴★	西川	堀	村田★	西川
診察室 (3)	小泉 (感染)	吉田★	田畑★	岡村	森本 (感染)
診察室 (4)	寺本 (吉田) (新患①②)	ポリクリ (9:30-10:30) 小浴 (新患③ 10:30~)	村田 (新患①②)	ポリクリ (9:30-10:30) 細井 (11:30~) (新患⑤ 11:00~)	小西 (田畑)★ (新患①②) (9:30, 10:00) ※当番内科 (1回/4週)
診察室 (5) 予診室 処置係	寺本/研修医①	太根/研修医②	松本《横矢》/研修医①	谷河/研修医②	小西 (横矢)
他病棟当日診療依頼	①松本《吉田》 ②太根	①谷河 ②松本《吉田》	①太根 ②横矢	①岡村 ②岡村	①横矢 ②谷河
予約外当日外来新患	寺本	小浴	村田	細井	小西 (田畑)
フォローアップ外来	西川・予診室 (第1水曜日)	小浴・診察室 (4) (第2火曜日)	村田・診察室 (4) (第3水曜日)	細井・診察室 (4) (第4木曜日)	
マルク診断	小浴	細井	田畑	村田	吉田
医局行事	医局会 (14:30~15:00) 入・退院, 連絡等 病理カンファレンス (第1 16:00~16:30) チャートカンファレンス (16:00~17:30)	病棟回診 (8:45~9:30) リサーチカンファレンス (第2,4 16:30~)	くすりの説明会 (第2, 4 12:30~12:45)	MGH (学生実習 2週目 8:00~8:30) 症例検討会 (研修医口-予月 第1,3 17:00~) 学会予行 (随時 17:00~) 移植カンファレンス (第4 17:00~) 診療会議 (教官) (第4 17:30~)	
日中平日当直 PHS 係 (8:45~17:30)	寺本	太根	横矢	谷河	岡村
	月	火	水	木	金
外勤(午前)		蒸野 岡村	園木 西川 吉田 寺本	太根 田畑 横矢	村田 細井 小浴
外勤(午後)	---	蒸野	西川 吉田 谷河		村田 細井 小浴

医局長	正 村田	副 細井	・(指導係), 《欠席時の代役》	・ヘナナバックス吸入 予診室 (1)	★day2のレジメン確定, 注射外来	Aチーム: 村田 田畑 横矢
病棟医長	細井	吉田	・処置係の役割分担	月・火・木: 10-12時不可	月, 木: 診察室 (2)	Bチーム: 小浴 岡村
外来医長	田畑	小浴	研修医: ルート確保, 皮下注射	水・金: 終日可	火, 水: 診察室 (3)	Cチーム: 細井 谷河
			スタッフ: マルク, 困難時のフォロー	・当番内科ローテーション	金: 診察室 (4)	Dチーム: 吉田 太根 松本
				田畑→吉田→横矢→谷河→太根の順番		※救急出向: 寺本

### (4) 5階西病棟の当直医表

2026.3

#### 3月当直表

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
小浴	太根	細井	岡村	田畑	太根	吉田
8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日
横矢	村田	栗山(小浴)	谷河	太根	横矢	岡村
15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日
田畑	小浴	細井	谷河	岡村	村田	太根
22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日
谷河	田畑	小浴	村田	横矢	奥田(田畑)	吉田
29日	30日	31日				
細井	岡村	谷河				

## 4 主な活動内容

### (1) 学会

#### ① 国際学会

Shotaro Tabata, Yusuke Yamashita, Yoko Inai, Shuhei Morita, Shinobu Tamura, Yoshito Ihara, Takashi Sonoki: “Transplant-Associated Thrombotic Microangiopathy (TA-TMA) Patients Show High Blood C-Mannosyl Tryptophan” 第15回日本血液学会国際シンポジウム2025.2025.05.16-17 唐津

H. Kosako, Y. Yamashita, T. Kato, I. Sasaki, S. Iwabuchi, M. Tane, T. Okamura, S. Tabata, K. Tanaka, N. Kanazawa, H. Hemmi, T. Mizushima, S. Hashimoto, T. Sonoki, S. Tamura, T. Kaisho. “Homozygous DNA ligase IV W447C mutation causes Th1-skewing enterocolitis under adaptive immunodeficiency in mice” The 19th International Congress of Immunology of the International Union of Immunological Societies (IUIS) 2025. Vienna, Austria.

Yusuke Yamashita, Jonathan Patton, Yuliza Shotts, Megan Du, Meaghan Sharik, Kirsten Pfeffer, Yuan Zhu, Chang-Xin Shi, Caleb Stein, Erin Meermeier, Marta Chesi, Lanbo Xiao, Arul Chinnaiyan, Benjamin Barwick, P. Leif Bergsagel. “Preclinical evaluation of SWI/SNF targeting agents in multiple myeloma including t(4;14) subtypes” The 2025 ASH Annual Meeting. Orlando, Florida.

#### ② 全国学会

堀善和. 「入院化学療法中にオンライン学習で高校卒業と大学入学を果たした一例」. 第10回がんサポーターブケア学会学術集会 2025.5.16-17和歌山

堀善和. 「濾胞性リンパ腫(FL)における初回免疫化学療法前の予後分類のための臨床的形質転換基準の有効性」. 第65回日本リンパ腫学会学術集会・総会2025.7.3-5愛知

蒸野寿紀. 「大規模災害を想定したドローンによる医薬品配送の実証実験について」. 日本社会薬学会第43年会 2025.9.7 和歌山

西川彰則. 「青洲リンクの災害時モードとPHRによる医療継続支援」. 第65回全国国保地域医療学会in和歌山 2025.10.3-10.4 和歌山

蒸野寿紀. 「和歌山県における医療DXの多面的展開：地域格差是正と災害対応に向けて」. 第65回全国国保地域医療学会 2025.10.4 和歌山

岡村雅, 細井裕, 池崎みどり, 大里元美, 西辻和親, 園木孝志: 「急性骨髄性白血病における細胞質p53凝集体の意義検討」. 第12回日本アミロイドーシス学会学術集会 2025.10.4 熊本

Tadashi Okamura, Hiroki Hosoi, Midori Ikezaki, Daisuke Motooka, Ibu Matsuzaki, Yuichi Tochino, Motomi Osato, Shinichi Murata, Yoshito Ihara, Jun Nakata, Kazuchika Nishitujii, Takashi Sonoki: “Cytoplasmic p53 aggregation in TP53-mutated acute myeloid leukemia/myelodysplastic syndromes”. 第87回日本血液学会学術集会 2025.10.10-12 神戸

太根美聡, 細井裕樹, 岡村雅, 谷河育朗, 寺本寛, 榊絢朱, 横矢悠馬, 田畑翔太郎, 吉田菊晃, 小浴秀樹, 田中颯, 棚野祐一, 古家美昭, 弘井孝幸, 堀善和, 村田祥吾, 園木孝志. 「高齢AML患者に対するVEN/AZA療法とCAG療法の多施設後方視的比較検討」. 第87回日本血液学会学術集会 2025.10.11 神戸

Yuto Amano, Masaya Morimoto, Yuichi Tochino, Hideki Kosako, Ken Tanaka, Yoshikazu Hori, Toshiki Mushino, Shogo Murata, Hiroki Hosoi, Takashi Sonoki: “A case of cellulitis caused by Streptococcus pyogenes in a CML patient treated with dasatinib”. 第87回日本血液学会学術集会 2025.10.10-12 神戸

曾我部 慎子, 小浴秀樹, 田中颯, 堀善和, 細井裕樹, 村田祥吾, 中田潤, 元岡大祐, 園木孝志. 「ASXL1 およびIDH1 変異を有する初発歯肉限局骨髄肉腫の一例」. 第87回日本血液学会学術集会 2025.10.10-12 神戸

西川彰則.「同種造血幹細胞移植後の遠隔長期フォローアップ (LTFU) 実施の課題」.29回日本遠隔医療学会学術大会 2025.10.24-25 長崎

西川彰則.「遠隔輸液管理システムは在宅輸血時の訪問看護師の負担軽減に役立つか?」.第45回医療情報学連合大会 2025.11.12-11.15 姫路

Hideki Kosako, Yusuke Yamashita, Misato Tane, Tadashi Okamura, Takashi Kato, Izumi Sasaki, Sadahiro Iwabuchi, Hiroaki Hemmi, Shinichi Hashimoto, Takashi Sonoki, Shinobu Tamura, Tsuneyasu Kaisho.“Mechanisms of Th1-skewed intestinal inflammation under adaptive immunodeficiency in the mice carrying W447C mutation of *Lig4* encoding DNA ligase IV”.第54回日本免疫学会学術集会 2025.12.11. 姫路.

細井裕樹, 堀善和, 大菅光雄, 前川ふみよ, 岡村雅, 村田祥吾, 大野仁嗣, 山本信之, 村田晋一, 洪泰浩, 園木孝志:「濾胞性リンパ腫での cell-free DNA と組織由来 DNA の変異遺伝子の比較検討」.第10回 Liquid Biopsy 研究会 2026.2.6-7 京都

小浴 秀樹, 山下 友佑, 太根 美聡, 岡村 雅, 田畑 翔太郎, 加藤 喬, 佐々 木泉, 岩淵 禎弘, 邊見 弘明, 金澤 伸雄, 橋本 真一, 園木 孝志, 田村 志宣, 改正 恒康.「*Lig4* 低形成性変異マウスにおける炎症性腸疾患の病態解析」.第9回日本免疫不全・自己炎症学会学術集会 2026.2.15 仙台

西川彰則.「在宅輸血の安全性を担保するための遠隔見守り」.日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス 2026, 2026.2.22 東京

蒸野寿紀.「テキストマイニングによる遠隔同種移植後長期フォローアップ外来受診患者の訴えの可視化と今後の展開」.日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス 2026, 2026.2.22 東京

武田里美, 細井裕樹, 谷河育朗, 高木良, 山本梨菜, 蒸野寿紀, 水谷優斗, 小池有美, 大山真穂, 青木和, 岡村雅, 太根美聡, 田中颯, 村田祥吾, 内垣亜希子, 幸田剣, 西川彰則, 園木孝志:「長期フォローアップ外来におけるFACT-BMTとInBodyによるQOLおよび体成分の評価」.第48回日本造血・免疫細胞療法学会学術集会 2026.2.27-3.1 東京

岡村雅, 細井裕樹, 園木孝志:「MDS の同種移植後にインフルエンザウイルス感染による ARDS を発症しルキノリチニブが奏功した1例」 第48回日本造血・免疫細胞療法学会学術集会 2026.2.27-3.1 東京

谷河育朗, 細井裕樹, 武田里美, 高木良, 山本梨菜, 蒸野寿紀, 岡村雅, 太根美聡, 田中颯, 村田祥吾, 内垣亜希子, 西川彰則, 園木孝志:「造血幹細胞移植後長期フォローアップ外来における性ホルモン値測定の意義」.第48回日本造血・免疫細胞療法学会学術集会 2026.2.27-3.1 東京

堀善和.「Prognostic Impact of the Image-to-Treatment Interval (ITI) in Patients with Diffuse Large B-Cell lymphoma (DLBCL)」.第26回日本臨床腫瘍学会学術集会 2026.3.8-10京都

### ③ 地方学会

武内 廉, 寺本 寛, 岡村 雅, 田中 颯, 堀 善和, 細井 裕樹, 村田 祥吾, 園木 孝志.「t(X;14)(p11.4;q32)を呈した濾胞性リンパ腫の一例」.第122回近畿血液学地方会 2025.6.14 奈良

八百裕太, 岡村雅, 細井裕樹, 村田祥吾, 園木孝志, 弘井孝幸, 栩野祐一:「KL-6高値を呈した形質細胞白血病症例と多発性骨髄腫におけるKL-6の意義検討」 第122回近畿血液学地方会 2025.6.14 奈良

山路千咲, 谷河育朗, 岡村雅, 細井裕樹, 園木孝志, 天野雄登, 栩野祐一, 蒸野寿紀:「再発性血栓性血小板減少性紫斑病に対してRituximabとCaplacizumabを再投与した一例」.第122回近畿血液学地方会 2025.11.8 大津

横矢 悠馬, 吉田 菊晃, 古家 美昭, 高橋 祐一, 村田 祥吾, 園木 孝志「骨髄炎を契機に診断した多発骨・卵巣病変を伴う若年発症びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫」.第123回近畿血液学地方会 2025.11.8 大津

石井 宏弥, 吉田 菊晃, 太根 美聡, 森本 将矢, 加藤 真衣, 村上 恵理子, 田畑 翔太郎, 小谷 秀樹, 細井 裕, 村田祥吾, 園木 孝志. 「脾臓多発低吸収域を呈したT-SPOT陰性播種性結核の一例」.第250回日本内科学会近畿地方会. 2025.12.6 大阪

岡村雅, 細井裕樹, 池崎みどり, 松崎生笛, 元岡大祐, 村田晋一, 井原義人, 中田潤, 西辻和親, 園木孝志 : 「TP53変異陽性急性骨髄性白血病における細胞質p53凝集体の臨床的・基礎的検討」.第53回和歌山悪性腫瘍研究会近 2025.12.20 和歌山

西川 彰則. 「訪問看護と連携した在宅輸血における遠隔輸液モニターの有用性評価」.令和7年度兵庫県輸血医療従事者研修会 2026.1.10 神戸

## (2) 学術論文

### ① 和文総説

西川 彰則. 「医療情報連携およびパーソナルヘルスレコードを用いた遠隔長期フォローアップ (LTFU) の未来」.日本造血・免疫細胞療法学会雑誌. 2026 ; 15 (1) : 1-6.

蒸野 寿紀, 小谷 和彦. 「ICTの利活用と地域医療：和歌山県立医科大学における遠隔外来の進展」.医療と検査機器・試薬.2025 ; 48 (3・4) : 119-123.

蒸野 寿紀. 「和歌山県における地域医療支援と医師養成の現状と課題—地域医療支援センターの役割と将来像—」.和歌山医学.2026 ; 77 (1) : 2-6.

### ② 英文原著

Hosoi H, Okamura T, Tabata S, Minoura N, Wan K, Hirayasu K, Murata S, Mushino T, Sonoki T. Favorable correlation between neutrophil percentages obtained using automated hematology analyzers and microscopic examinations in malignant lymphoma patients receiving chemotherapy. *Ann Hematol.* 2025 Apr;104(4):2305-2316. doi: 10.1007/s00277-025-06313-1. Epub 2025 Mar 20. PMID: 40111499

Hori Y, Hosoi H, Osuga M, Iwamoto R, Maekawa F, Okamura T, Murata S, Mushino T, Osato M, Ohno H, Yamamoto N, Murata SI, Koh Y, Takashi S. Genetic analysis of cell-free DNA in follicular lymphoma in comparison with tissue-derived DNA. *Leuk Lymphoma.* 2025 Dec;66(14):2633-2643. doi: 10.1080/10428194.2025.2556961. Epub 2025 Oct 15. PMID: 41090519.

A.Nishikawa, S.Mitani, A.Miura, and H.Akasaka. Remote Vital Monitoring During Home Blood Transfusions in Japan Using Attendant-Performed Vitals: A Pilot Feasibility and Safety Study. *Health Science Reports.* 2026 ; 9 : e72199.

### ③ 和文症例報告

曾我部 槿子, 村田 祥吾, 田中 颯, 松本 藍, 寺本 寛, 岡村 雅, 榊 絢朱, 田畑 翔太郎, 小谷 秀樹, 堀 善和, 山下 友佑, 蒸野 寿紀, 細井 裕樹, 佐藤 亜紀, 園木 孝志. Erdheim-Chester diseaseに対する分子標的治療. *臨床血液.* 2025 年 66 卷 10 号 p. 1305-1309. PMID: 41192860

### ④ 英文症例報告

Tane M, Hosoi H, Hiroi T, Murata S, Mushino T, Sonoki T. Obinutuzumab-induced Acute Thrombocytopenia Mimicking Immune Thrombocytopenia in a Patient with Follicular Lymphoma. *Intern Med.* 2025 Oct 15;64(20):3007-3011. doi: 10.2169/internalmedicine.5191-24. Epub 2025 Apr 12. PMID: 40222942; PMCID: PMC12589149.

### ⑤ レター

Okamura T, Imamura Y, Kosako H, Tanigawa I, Okabe Y, Yokoya Y, Morimoto M, Mushino T, Motooka D, Nakata J, Takashi S, Hosoi H. Lineage switch from B-ALL to AML via an intervening MDS/MPN phase with acquisition of RBM15::MKL1 and RAD21 mutation. *Leuk Lymphoma.* 2026 Jan;67(2):451-455. doi: 10.1080/10428194.2025.2576560. Epub 2025 Oct 31. PMID: 41173236

Yoshida K, Mushino T, Tanaka K, Kosako H, Hori Y, Morimoto M, Murata S, Nishikawa A, Murata SI, Tamura S, Ohshima K, Sonoki T, Hosoi H. Leuk Lymphoma. 2026 Feb 3:1-5. doi: 10.1080/10428194.2026.2622526. PMID: 41631868

Hosoi H, Tanigawa I, Nouchi T, Sogabe M, Tanaka K, Murata S, Murata SI, Sato A, Sonoki T. Detection of BRAF V600E on the Re-evaluation in Erdheim-Chester Disease with Prior Negative Testing. Intern Med. 2026 Mar 31. doi: 10.2169/internalmedicine.7053-25. Online ahead of print. PMID: 41922243

### (3) 受賞歴

- ・日本免疫学会 第19回国際免疫学会議 Bursary 2025年5月26日 小浴秀樹
- ・第12回日本アミロイドーシス学会学術集会 優秀演題賞 2025年10月4日 岡村雅
- ・和歌山県立医科大学 令和7年度若手研究奨励賞 2026年2月9日 田畑翔太郎
- ・和歌山県立医科大学 令和7年度学術論文奨励賞 2026年2月26日 堀善和, 太根美聡
- ・第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会 Travel Award 2026年3月1日 武田里美, 谷河育朗

### (4) 著書 (単行本、シリーズもの含む)

- ・赤坂浩司, 西川彰則. 「クリニック・在宅診療での輸血の問題」内科, 2025 ; 136 (4) : 927-929.
- ・蒸野寿紀. 「ペグセタコプランによる治療が奏効したC5遺伝子変異を有する症例」. 発作性夜間ヘモグロビン尿症症例集 20症例で読み解くPNH診断・治療アプローチ 西村 純一 編, 108-113, 診断と治療社, 東京, 2026年2月26日発行

### (5) 研究費、助成金

- ・令和7年度 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 「骨髄線維症におけるC-マンノシルトリプトファンの役割の解明」 園木孝志 (研究代表者)
- ・令和7年度 厚生労働科学研究費補助金 (松本班) 「日本の輸血医療における指針・ガイドラインの適切な運用方法の開発」 園木孝志 (研究分担者)
- ・令和7年度 特定研究助成プロジェクト 「p53変異がんにおけるp53凝集体の病態意義の解明と治療ストラテジーへの応用」 園木孝志、細井裕樹 (研究分担者)
- ・2025年4月-2028年3月 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 「ミリ波センサーを活用した血液疾患患者のための安全な在宅診療システムの開発」 西川彰則 (研究代表者)
- ・令和7年度 大学等地域貢献促進事業助成 「和歌山県内の学生協働による健康支援モデルの構築と実装研究—医・薬・栄養・工学系学生と地域薬局の連携によるPHRを活用した地域活性化—」 蒸野寿紀 (研究代表者)
- ・令和7年度 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 「スーパーエンハンサーと相分離に着目したB細胞リンパ腫でのPVT1の機能解明」 細井裕樹 (研究代表者)
- ・令和7年度-令和9年度 科学研究費助成事業 若手研究 「DNA損傷修復障害を基盤として発症する炎症における自然免疫系の役割の解明」 小浴秀樹 (研究代表者)
- ・令和7年度 日本血液学会研究助成 「骨髄腫細胞内の小胞体ストレス応答が腫瘍微小環境に与える影響の解明」 小浴秀樹 (研究代表者)

- 令和7年度 和歌山県立医科大学若手研究支援助成「cfDNAを用いた濾胞性リンパ腫の病態解明」  
堀善和（研究代表者）
- 令和6年度-令和8年度 AMED革新的がん医療実用化研究事業「中枢神経系再発高リスクの未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する中枢神経系再発予防を組み入れた治療法のランダム化第Ⅲ相試験」  
堀善和（研究分担者）

## (6) その他

- 特許7759917, 医療情報管理システム及び管理サーバ, 楠本嘉幹. 西川彰則

## 5診療実績

(1)	外来	患者総（のべ）数（一時退院後を含む）	10559名
		新規患者数（病院集計）	247名
(2)	入院	患者総（のべ）数（一時退院後を含む）	538名
	退院	患者総（のべ）数（一時退院後を含む）	551名

### 外来新規患者の疾患名と患者数(疑い症例を含む) 2025年4月～2026年3月

1)	白血病		
	AML		1
	CMML		7
	HCL		1
	CLL		5
	ALL		2
	Ph+B-ALL		2
	CML		8
	MEITL		1
2)	MDS		20
3)	MM		19
4)	リンパ腫		2
	悪性リンパ腫(その他)		33
	DLBCL		25
	MTXリンパ腫		1
	MALT		20
	MCL		3
	HL		6
	NHL		1
	cHL		2
	FL		15
	AITL		4
	T細胞リンパ腫		1
	HGBCL		1
	PTCL		1
	CTCL		1
5)	貧血		17
	AA		5
	IDA		4
	大球性貧血		4
	小球性貧血		2
	正球性貧血		2
	巨赤芽球性貧血		1
6)	腫脹・腫大・腫瘍		
	腫大		12
	腫脹		1
	眼窩内腫瘍		1
	眼瞼部腫瘍		1
	骨髄増殖性腫瘍		3
	精巣腫瘍		1

	皮膚付属器腫瘍	1
	脳腫瘍	1
7)	多血症	11
8)	その他	
	ET	11
	ITP	9
	形質細胞腫	1
	症候性骨髄腫	1
	血小板減少症	33
	偽性血小板減少症	1
	血小板増多症	1
	白血球減少症	7
	白血球増多症	4
	好中球減少症	4
	好中球増多症	1
	汎血球減少症	9
	赤血球増多症	7
	血球減少	4
	好酸球増多症	10
	顆粒球減少症	1
	ウイルス感染	1
	HIV 感染症	1
	アミロイドーシス	2
	ATTR	1
	WM	6
	サラセミア	2
	前立腺癌骨髄浸潤	1
	膵神経内分泌癌	1
	肺癌	1
	肺小細胞癌	1
	偽性血小板血症	1
	高グロブリン血症	1
	クリオグロブリン血症	1
	単クローン免疫グロブリン血症	1
	ジアルジア症	1
	MGUS	6
	M 蛋白血症	5
	クラミジア陽性	1
	播腫性非結核性抗酸菌症	1
	梅毒	1
	骨髄繊維症	1
	ネフローゼ症候群	1
	SFTS	1
	VEXAS 症候群	1
	抗リン脂質抗体症候群	2

IgA 欠損症	1
慢性甲状腺炎	1
伝染性単核球症	1
リンパ背増殖性疾患	1
Still 病	2
血友病	2
血友病 A	3
血友病 B	1
WBC 高値	2
IgE 高値	1
LD 高値	1
HTLV-1 キャリア	1
クリプトコッカス感染	1
先天性プロテイン C 欠乏症	1
APTT 延長	4
ビタミン B12 欠乏	1
MTX-LPD	9
JAC2 変異陽性	1
EGPA	1
ID-LPD	1
IgG 単独欠損	1
9) 死亡	28
10) 剖検	3

入院患者疾病別分類(入院のみ、重複あり、疑い症例を含む)

1) 白血病	
ALL	11
B-ALL	8
Ph+ALL	11
Ph-ALL	17
AML	66
AML-MRC	2
APL	7
PCL	1
HCL	1
CML	3
CMML	5
2) MDS	27
3) MM	53
4) リンパ腫	
悪性リンパ腫	17
DLBCL	120
IVLBCL	4
HL	7
AITL	12
FL	33
cHL	1

	ENKL	1
	MEITL	1
	AKL	1
	IVL	1
	LBCL	1
	ML	1
	NMZL	1
	PCNSL	8
	NSCHL	1
	PMLBCL	1
	PMBCL	2
	PMBL	4
	PTCL	1
	AITL	1
	MEITL	5
	HGBL	3
	MALT	2
	MCL	10
	SLL	3
	T細胞リンパ腫	1
	B細胞リンパ腫	3
	ALCL	1
5)	貧血	
	AA	2
	AIHA	1
	溶血性貧血	2
6)	腫大・腫瘍・腫瘤	
	腫大	1
	左小脳腫瘍	1
7)	ドナー	
	骨髄採取ドナー	4
	抹消血管細胞採取ドナー	1
	リンパ球採取ドナー	1
8)	その他	
	ITP	7
	血小板減少症	6
	汎血球減少症	2
	寒冷凝集素症	1
	WM	7
	AKI	1
	MF	1
	FN	1
	エルドハイムチェスター病	3
	M蛋白血症	1
	MTX-LPD	2
	COVID-19 陽性肺炎	1
	骨髓肉腫	2
	細菌性肺炎	4

前立腺癌	1
高 LDH 血症	1
症候性骨髓腫	1
腸炎	1
肺炎	2
伝染性単核球症	1
AIDS	1
TMA	1
菌状息肉症	2
肺浸潤影	1
不明熱	1
ライノウイルス感染症	1
血友病 A	2
Streptococcus mutans 菌血症	1
TTP	1
VEXAS 症候群	1
歌舞伎症候群	2
感染性脳炎	1
上部消化管 GVHD	1
肝門部腫瘍	1
急性腎障害	1
急性腸炎	1

## 6リーダーレポート

### 年報に寄せて～2025年度を振り返る～

地域医療支援センター 教授 蒸野 寿紀

2025年4月1日に和歌山県立医科大学地域医療支援センター センター長・教授に就任して以来、1年間、大きな支障なく務めることができ、まずは安堵しております。また、7月5日には祝賀会を、6月13日には若手の先生方を含めたお祝いの食事を開催していただきました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。就任以来、m3.com、テレビ和歌山「わかやま医療ナビ」、最新の医学・医療カンファランス、教授就任記念講演会、『和歌山医学』の総説執筆など、就任に伴うさまざまな機会が続き、慌ただしくも充実した1年となりました。加えて、入試関連業務や和歌山医学会の事務局業務も加わり、業務の幅が広がりました。地域医療支援センターの業務では、2025年7月から8月にかけて実施した和歌山県キャリア形成プログラムに関する意見照会と見直しの方向性の検討、2026年4月からのへき地診療所への地域枠医師の派遣方法の見直し、さらに2027年4月からの遠隔外来運用の見直しが大きな動きでありました。また、卒後臨床研修センターでは、NPO 法人卒後臨床研修評価機構による書面調査の年でしたが、無事提出を終えることができました。

血液内科では、水曜日の予約外来のみを担当しました。4月16日に最後の当直を終え、病棟診療から離れたことで、血液内科医として第一線を退く寂しさを感じる場面もありましたが、園木教授から頂いた「何かを得るには何かを捨てなければならない」とのお言葉に背中を押され、覚悟を新たにしました。教育面では、臨床医学講義 血液系の血小板・凝固異常の2コマを担当したほか、田畑先生とともに骨髓生検シミュレーションを週1回実施しました。紀南病院での外勤は10年目となり、栩野先生、田中先生、天野先生、曾我部先生にお世話になりながら、多くの患者さんの診療に携わることができました。また、センター業務の傍ら、『悪性リンパ腫治療マニュアル』の改訂や『発作性夜間ヘモグロビン尿症症例集』の原稿作成にも取り組みました。『逃げない内科診療 決定版』では、発熱性好中球減少症・G-CSFの改訂を寺本先生に、血小板数正常の出血傾向の新規執筆を谷河先生にお願いし、お二人とも素晴らしい原稿をご執筆いただきました。研究面では、以前に吉田先生と取り組んだ成人T細胞白血病リンパ腫のCD30発現に関する研究が、細井先生のご尽力によりLeukemia & LymphomaのLetterとして採択されました。また、移植後後期腹水症に関する科研費についても、田中先生に病理学的検討をお願いし、報告書としてまとめることができました。血液内科での課題に一区切りつけることができ、安堵しております。

2026年4月1日からは、従来の当番内科を引き継ぐ形で総合診療科外来を立ち上げることとなりました。本院に総合診療科がない大学は本学を含め7大学しかなく、必要性を強く感じて昨年8月より準備を進めてまいりました。9月に厚生労働省が特定機能病院の基礎的基準の一つとして、総合的な診療を担う診療科の設置を位置付けたこともあり、動きが加速したように思います。血液内科の先生方には、外来ブースの使用や当直での対応など多大なるご尽力を賜り、心より御礼申し上げます。こうした新たな取り組みを踏まえ、2026年は総合診療専門医試験の合格を目指し、さらに研鑽を積んでまいりたいと考えております。今後も、地域医療支援センターの業務を基盤に、地域医療の充実と大学の発展に少しでも貢献できるよう努めてまいります。引き続きご指導、ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 節目を感じて

医局長 村田 祥吾

スターバックス、さくらが閉店となり、ファミリーマートもローソンに変わる準備中の3月、当たり前のように長く続いてきたものがなくなるのはやはり寂しさを感じる。春は別れの季節でもあるが、今年はそれが一気に押し寄せた感が否めない。スターバックスは大学6年の頃に大学病院初という話題のもとで開店し、約20年間、多忙な毎日一時のくつろぎを与えてくれた。追い打ちをかけるように紀三井寺のモスバーガーも3月で閉店となった。大学入学時から紀三井寺に25年間住み続け、食事以外にも入試面接までの時間潰し、大学時代の試験勉強、飲み会後の酔い醒ましと様々な用途で利用した思い出深い場所であった。

長く続けている（続いている）ことと言えば、以前、リーダーレポートにも書いたが、2002年1月1日より書き続けている新潮文庫のマイブックが2026年で節目の25冊目になる。書き始めた頃は数行で終わる日もあったが、この20年くらいは毎日1ページをびっしりと書き続けている。家族には「偉いな」、「よく続くな」、「何のために書いているの」と、感心されつつも揶揄されながら続けてきた。それでも過去の出来事がふと気になった際に思い出するための最良の手段となっており、それなりに家族の役にも立っていると考えている。また、日々感じたことを誰の目も気にせず思いのままに書くことはストレスコーピングになっている。今年も例年通り、完全に個人的な内容で半分以上書き綴ってしまった。

医局長として4年半務めてきたが、今年度は同期の蒸野先生が地域医療支援センターの教授に就任されるという明るい話題があった。一方で、仲間との悲しい別れも経験した。医局を離れられた先生、春より新天地で活躍される先生もいる。近年は医局員が減少傾向にあるが、今年度も武内簾先生が入局を決めてくれた。11年連続の入局者である。7年ぶりに開催した紀杏会（同門会）での力強い挨拶に頼もしさと活力を感じた。毎年のことではあるが、血液内科を選んでくれたことを後悔させないよう育てていく責任を感じている。

今年度は卒後19年目であり、4月より准教授を拝命した。私が研修医1年目に血液内科をローテートした際の園木教授が当時、卒後19年目の助教授であった。そんな節目の年でもあったため、1年目の研修医を見る目が例年とは少し違ったように思う。当時の自分はどのように映っていたのか。きっと頼りなく、危なっかしく、それでも毎日がむしゅらに働いていたのだと思う。そんな私も今では医局をまとめる立場にある。今年度の1年目研修医が19年目になる頃、果たして私はどこで何をしているのか。相変わらずマイブックは書き続けているのだろう。

## 2025年度を振り返って

輸血部 准教授 細井 裕樹

今年度も輸血部所属で病棟医長も担当致しました。今年度のトピックは、造血器腫瘍遺伝子パネル検査であるヘムサイト®が開始されたことかと思えます。急性骨髄性白血病の移植適応を決める際には遺伝子検査情報も必要となりますが、今までは臨床試験として測定して頂いていました。今年度から正式に日常診療としてヘムサイト®にて変異遺伝子を測定可能となりました。また、診断が困難な造血器腫瘍であっても特徴的な融合遺伝子や変異遺伝子をもつ疾患では、ヘムサイト®にて診断の重要な手がかりを得ることができるようになります。エキスパートパネルが必要となり、まだまだワークフローで慣れないところはありますが、今後診療の重要な位置づけになるでしょうから積極的に活用できればと考えております。エキスパートパネルとの連携の整備などは腫瘍センターの堀善和先生が尽力してくれ、当院にもヘムサイト®を導入することができました。

輸血部では今年度も新たなCAR-T治療（ブレヤンジ）を導入できました。今年度は10例以上のCAR-T治療を行っており、CAR-T治療も軌道にのってきたと感じています。一方、同種移植治療でもPTCyを用いたHLA半合致移植が一般的になり、血縁者の末梢血幹細胞採取が増加したことで、幹細胞とT細胞の両方の採取が混在してアフェレーシスの予約が混雑するようになりました。輸血部の中島さんと山本さんが採取日程の調整や実施を引き受けてくれて、円滑な細胞治療につながっており感謝しています。今後、多発性骨髄腫のCAR-T治療も導入できればと考えております。また、来年度は慢性移植片宿主病に対する体外フォトフェレーシス治療も導入できればと考えています。

今年度も病棟医長を担当しました。一時、病床稼働率が110%を超えて病床のやり繰りが難しい時期もありましたが、内垣師長が工夫して病床を回してくれました。近年、多くの病院が赤字運営になり、DPC入院日数を考慮するなど診療上の工夫を求められています。急性白血病の患者さんは入院日数が長くなりますので、他の造血器疾患の患者さんとのバランスをとりながら、診療していきたいと考えております。実診療面では病棟内に血液専門医が多くなり診療経験豊富な先生が増えたことで、より安定した診療を提供できるようになっていると感じています。地域医療枠の先生が増えていますので、大学に戻ってきた際に有効に血液疾患診療を学んで頂ければと思っています。

研究に関しては、悪性リンパ腫発症におけるPVT1の役割に焦点をあてた研究は今年度もなかなか進められませんでした。来年度は病理学教室でChIPを学びながら進めたいと考えています。大学院生の岡村先生が生化学教室とTP53に関する研究を進めてくれ、頼もしく思っています。来年度はまとまるように微力ながら支援したいです。

2025年度も病棟スタッフ、外来スタッフ、輸血部の技師さん、医局秘書さん、診療を担当している医局員や関連病院の先生方、大学院生、栄養士・医療安全を含めたコメディカルなど多くのスタッフに支えられながら診療、教育、研究を行うことができ、感謝しております。

## 2025年度 リーダーズレポート

腫瘍センター 助教 堀 善和

今年度も一年の振り返りの時期となりました。近年は社会全体において変化のスピードが一層加速しており、医療分野においてもその影響を強く実感しております。そのような状況の中で、少しでも時勢に乗り遅れることのないよう、日々研鑽を重ねていきたいと考えております。

特に AI 技術の進歩は著しく、かつて計算機がパーソナル化した時代に匹敵するような大きな変革が到来しつつあるのではないかと感じています。このような新たな時代の潮流に取り残されることのないよう、知識のアップデートと柔軟な対応を心がけ、引き続き努力してまいりたいと考えております。

院内の取り組みとしては、外来薬物療法センターを中心に、現状の課題を整理し、それらを解決するための仕組みの見直し・改善に取り組んでおります。より効率的で質の高い医療提供体制の構築を目指し、引き続き検討を進めていく所存です。

また、学術活動においては、可能な限り学会への参加および発表を行い、自身の知見の向上とともに、得られた知識を日常診療へ還元することを意識して取り組んでまいりました。以下に今年度の主な活動実績を示します。来年度も引き続き、より良い体制の構築に向けて改善を重ね、医療の質の向上に貢献できるよう努めてまいりたいと考えております。

### 2025年度の主な変更事項

- 外来薬物療法センターのベッド増床 (20床 -> 22床に)
- 化学療法のシリンジポンプ皮下注を臓器横断的に実施可能とし、さらに手続きの簡素化を実施
- 外来薬物療法での皮下注投与の調整
- 外来薬物療法センターの予約枠調整
- 院内エキスパートパネルシステムの構築
- 第2相試験の開始
- ホームページの立ち上げ、システム構築

## 2025年度を振り返り、2026年度に向けて

助教 小浴 秀樹

長くデフレが続いていた日本も本格的にインフレに転換し、大企業は好況になる一方で、私達が所属する大学病院の運営が非常に厳しくなっていることは世間にも周知されるようになりました。大学病院で働く私達は労働環境の変化を身に染みて感じており、日本の医療体制の揺らぎが、容易に解決できる問題でないことも理解しています。他方、2026年度は科学技術分野への政府予算の大幅増額が決定され、研究開発分野には追い風が吹き始めています。私達が生きる社会は急速に変化しており、この変化にどのように適応し、生き残るかが今、私達に問われています。現状を悲観的に捉えるのではなく、今行っている仕事を見直し、無駄をそぎ落として、真に価値のある仕事に注力する機会とすべきでしょう。

最も基本的で重要な点は、和歌山唯一の臨床血液学教室であることです。私たちの教室の核心的価値は、血液専門診療を行う医師を養成することであり、他に取って変わられない強みです。したがって、絶えず次代の血液診療を担ってくれる若者を見つけ出し、入局し続けてもらうことが重要です。そのためには、しっかりとした考えを持った研修医が、今後ここで働きたいと思ってくれるような環境づくりをする必要があるのではないのでしょうか。働き方改革でやたらと労働時間を短縮することばかりに目が向けられていますが、私達はそのような薄いことにとらわれるのではなく、価値ある仕事にやりがいを感じて取り組めるようにしなければ、現状維持もままなりません。

研究については、私達の文脈では、完全に臨床人材の育成を土台にした二階部分です。先に研究分野への予算増額について触れましたが、政府が真に支援したい科学技術とは、国の安全保障と結びついたコアな分野でしょう。そこには創薬につながるような医学研究が含まれるはずですが、研究における私達の強みは、実際に病気を知る医師の視点で、病態研究をデザインできる点にあります。無論、大量の患者サンプルを用いた検討は限られた巨大施設にしか行えないことであり、私達が望むべき道ではありません。私達が現実的に目指すことができる道としては、特定の疾患の病態を深く理解し、基礎研究室と協力して病態モデルを構築し、解析することが挙げられます。病態を深く理解すること、研究パートナーになってくれる基礎研究室の選定、どちらも簡単なことではないですが、長期的に取り組む価値のある仕事になると思います。

当教室の大学院の状況ですが、4月に小西先生が入学され、9月に田畑先生が修了と同時に学位を取得されました。現在は栩野先生、岡村先生、太根先生、小西先生の4名が在学しており、過去になく多い水準が続いていることは大変嬉しい反面、一人一人への指導が薄くなっている面も否めません。今後も若手の先生が安心して学位取得を目指せるよう、研究指導について改めて方策を考える必要があります。

最後になりましたが、和歌山医大血液内科学教室に関係する全ての方々に、日頃の厚意に感謝を申し上げたいと思います。2026年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 2025 年度を振り返り、2026 年度へ向かう

助教・外来医長 田畑 翔太郎

2025 年 7 月より助教・外来医長を拝命しました田畑翔太郎です。私にとって 2025 年度は公私ともに立場や環境が大きく変わった 1 年でした。臨床・研究・教育の各視点から 2025 年度の振り返りと 2026 年度に向けた抱負・展望を記したいと思います。

まず臨床ですが、病棟では 4 月から吉田先生・田中先生、7 月から榊先生・小浴先生、10 月から松本先生・小浴先生、1 月から横矢先生・村田先生と 3 ヶ月ごとにチームを渡り歩いた 1 年でした。1 年を通して多くの先生方とチームを組めたことで、自分にはない視点や知識、経験を多く学ばせて頂きました。特にがん研有明病院への留学帰りの同期吉田先生からは、留学先で培われた臨床試験の経験や学術活動への意識の高さなど、多くの刺激を受けました。一方で 4 月よりこども園へ入園した娘たちが様々な感染症をもらって帰宅し、看病のために休暇を頂くことも多い 1 年でした。ご迷惑をおかけしたにも関わらず、快く業務を代わって頂いた・カバーして頂いた先生方に改めて御礼申し上げます。

外来では研究テーマでもある骨髄増殖性腫瘍や、以前より興味のある同種移植後の患者を自身の外来へ多く引き継がせて頂きました。当科の外来は血液専門外来であると同時に、大学病院の外来として高次医療の提供と臨床研究の推進、関連・地域医療機関との連携が求められます。実際 CAR-T 細胞療法を目的とした当科への紹介患者数は、導入後より年々増加しています。従来までの造血幹細胞移植と併せて、県内の適応患者がスムーズに当科を紹介受診できるような体制作り、関連医療機関との連携に努めていきます。

また新規・高度医療だけでなく、日々の日常業務も増加しています。外来でも総患者数・化学療法患者数のいずれも増加傾向です。スタッフが少ない中で、ミスがなく・効率よく業務を行える環境作りも重要と考えます。日常診療の業務負担軽減のため、外来業務・分担の見直し、クリティカルパスの作成も積極的に進めていきたいと思います。

研究では山下先生・田村先生・園木先生にご指導頂き、生化学教室との共同研究で本態性血小板血症における C-mannosyl tryptophan(CMW)の有用性をテーマに学位を取得できました。大学院在学中、田村先生からは「学位を取って終わりではなく、そこからさらに研究を発展できるように」とご指導頂きました。それを実践できるよう骨髄増殖性腫瘍における CMW の意義について、変異マウスの解析などの検討を進めたいと思います。

教育では蒸野先生と担当させて頂いている臨床実習での骨髄生検実習を継続したことに加え、系統講義も担当しました。また ICLS では寺本先生・蒸野先生のご指導でディレクター資格を取得でき、JMECC ではブース長を担当させて頂きました。個々の指導だけでなく、講習会全体の運営・指導の質などを考えさせられた 1 年でした。今後は和歌山県外施設での指導にも参加し、指導に磨きをかけたいと思います。

最後になりましたが、移植コーディネーターとしてご尽力された山本梨菜さんのご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表します。

## 2025年の振り返りと新年度の抱負

助教 吉田 菊晃

和歌山医大血液内科の皆様にはご無沙汰しております。このたび、がん研究会有明病院血液腫瘍科での3年間の国内留学を終え、当科へ復帰させていただきました。改めまして、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2025年は、留学期間を経て新たな環境で再出発する節目の一年となりました。がん研究会有明病院血液腫瘍科においては、臨床試験および治験に関する知識と実践を学ぶ貴重な機会をいただき、日常診療とは異なる視点から血液疾患診療を捉える重要性を実感いたしました。また、JCOG-LSGに関連する活動として、ATL小委員会およびLSG-STEMに参加させていただきました。LSG-STEMの活動の一環として、JCOG0601試験の副次的解析である「初発DLBCLにおけるDiagnosis to treatment intervalの意義に関する検討」に取り組み、臨床データを基盤とした研究の意義と難しさを学ぶことができました。これらの経験は、今後の臨床・研究活動において大きな財産になると考えております。

新年度におきましては、これまでに得た知識や経験を還元し、診療・研究の両面から教室に貢献していきたいと考えております。特に、臨床試験の推進やデータに基づく診療の実践に積極的に関わり、より質の高い医療の提供に努めてまいります。また、和歌山医大血液内科の皆様とともに成長し、互いに学び合いながら、新たな成果を創出できるよう努力してまいります。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 2025年度を振り返って

5階西病棟 内垣 亜希子

5階西病棟に異動し、1年が経過しました。私にとって24年ぶりとなる当病棟では、医療の進歩により患者さんの苦痛が緩和されていることを実感するとともに、移植件数の多さに驚きを感じた1年でした。

今年度は、看護部目標である「患者家族が『よい』と感じられる看護を考え、つなぐ」をもとに、長期療養を余儀なくされる血液内科の患者・家族が目指すべきゴールを模索しながら、日々の看護に取り組んできました。

その一環として、患者の「生の声」を看護実践に反映させるべく、退院時アンケートを実施しました。調査の結果、身体的症状では倦怠感、感染症、発熱が、精神的側面では再発への不安、不眠、気分の落ち込みなどが上位を占めました。さらに、食事管理や社会復帰（復職・復学）といった退院後の生活面においても多くの課題を抱えている実態が浮き彫りとなりました。これらの結果は、ある程度予測していた内容ではありましたが、実際の声として可視化できたことは、今後の私たちの看護実践における具体的な改善への足掛かりとなりました。今後も、患者がその人らしい人生を歩んでいけるよう、多職種と連携し、チーム全体で支援を深めていきたいと考えています。

また、患者の生活の場である療養環境を整え、患者が心地よく過ごすことができ、安心して治療に前向きに専念できるよう取り組みました。感染リスクを伴う治療が多い中、清潔な環境を維持するだけでなく、患者の誕生日のお祝いや季節の行事、入院生活の中に個々の趣味を取り入れるといった介入も大切にしました。こうした一つひとつの関わりが患者さんとの信頼関係を深め、前向きに治療に臨む意欲を引き出す一助となったのではないかと考えています。

この1年で得られた知見と課題を糧に、次年度も「看護の質向上」を目指すとともに、患者も家族も私たち医療従事者もみんなが happy になれる病棟づくりに取り組んで参りたいと思います。

1年間ありがとうございました。

## 2025 年度を振り返って

輸血部 主任 堀端 容子

今年も 1 年を振りかえる時期がやってきました。

2025 年度の始まりは、細胞治療業務の拡大を見据え、細胞治療業務に関わる人材育成と輸血部業務の効率化の必要性を強く意識するスタートでした。

そのなかで、手術用「T&S」依頼限定ではありますが、コンピュータークロスを導入したことは安全性を損なわずに負担を減らすという目的に合致した改善でした。また、新しい規格のアルブミン製剤の採用や輸血関連検査手技の見直しなどの小さな業務改善の積み重ねは、細胞治療業務に関わる時間と余力の確保と少しだけ病院の経営改善にも役立っているものと思います。

細胞治療業務に関しては、細井先生と中島さんが中心となり、新たにブレヤンジの認証を取得、現在 3 種類の CAR-T 療法製剤を実施可能な体制となりました。また交換輸血や DLI など、症例数は少ないですが多様な業務に対応できるよう、手順の共有や見直しを行い、運用継続することができています。細胞治療において、輸血部での役割はアフエーシスや細胞処理・保管、品質管理など限定されていますが、臨床側の事で不明な点はいつも細井先生やアフエーシスナースの高木さんに相談に乗っていただき、とても心強く思っています。これから輸血部としてもチーム医療への貢献を意識しながら、さらに業務の充実に努めていきたいと思っています。

最後になりますが、私自身、輸血部の責任者となって 3 年が過ぎ、安全性を守りながら業務負担を軽減するための改善や次世代を担う人材育成が少しずつ形になってきたように思います。またこの 1 年、大きなインシデントなく無事に終えることができるのは、いつも温かく見守り指導してくださる園木先生、細井先生をはじめ輸血業務に関わる先生方やスタッフの皆さんのご理解とご協力があつてこそだと感謝しております。

来年度も、細胞治療業務の中心的役割を担い安定した運用を支えてくれている中島さん、医学生や検査技師実習生などの輸血医療教育に尽力してくれている富坂さん、2025 年認定輸血検査技師試験に見事合格し細胞治療業務にも積極的に取り組んでくれている山本さん、そして玉置さんに代わり新たに配属された近田さん、私自身も含め、少々個性の強い(?)メンバーではありますが、それぞれの持ち味を生かしながら、より安全で信頼される輸血部をつくっていただければと思います。

## 7 寄稿文

### 当科における 2025 年度を振り返って

和歌山ろうさい病院 血液内科 阪口 臨

まず、2026年1月をもって、当科は20年目を迎えました。貴医局初の公的関連病院として、その役割を果たしてこれたのは、皆さんのお力添えがあったからです。ここに御礼申し上げます。

次に、病棟で無菌室の増床工事が終了し、計4床での運用が開始されました。血液疾患の治療においてはご存知の通り常に感染対策は欠かせません。これまでの当科での診療実績を鑑み増床許可が得られたことに感謝しています。

また、週一回病棟スタッフとの入院患者カンファレンス、不定期でのスタッフ向けの血液疾患勉強会、研修医の研修や医学生の実習の受け入れを例年通り継続しました。

それから、緩和ケアのチームラウンド（PCT）にも参画しました。専門となる診療科のない中、週一回ですが私のできる範囲で活動しています。年一回の県がん診療連携協議会による緩和ケア研修会の総合司会や講師も無事終わりました。

さらに、輸血療法とがん薬物療法に関するコメディカルスタッフ向けの研修会も継続しました。それぞれに院内認定制を導入し、スタッフが安全に実施できることを目指しています。特にがん薬物療法では皮下投与製剤の増加に伴い、チーム医療は益々重要となってきました。また、患者の皆さんも安心して治療を受けていただくことにつながると信じています。

最後に、常に重症患者さんを快く受け入れご加療くださりありがとうございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします。

2026.3.

## AI と医療

公立那賀病院 古家 美昭

榊先生と二人体制で週 1 回の外来で村田先生の貴重なご意見をいただき血液内科業務に従事しております。7月からは田中先生にかわり吉田先生が外来を引き継いでくださっています。

さて昨今、人工知能[AI (artificial intelligence)、以下 AI]の進歩はすさまじく我々の生活には欠かせないものとなってきております。数年前までは「日常生活にはあまり影響ないかな。」と考えておりました。しかし久々に私自身のスマートフォンを新しいものに乗り換えるといろいろな機能が付加されておりました。代表的なものは「AI モード検索」。キーワードを打ち込むといろいろなサイトや論文などの報告からサマライズしてくれます。恥ずかしながら自分自身も知らない知識も教えてくれます。知識量についてはもはや人間では AI になわないのではないのでしょうか。医療分野では電子カルテの情報をサマライズしてまとめてくれる AI のサービスを導入している病院もあります。とくに経過が長い症例の経過把握に役立ちそうです。AI による画像読影も実用化されてきているようです。このまま我々人間の仕事は AI に取って変わられるのでしょうか...？

私自身、現時点では否と考えておりますが楽観的でしょうか。実際、CV カテーテル挿入や骨髄穿刺、腰椎穿刺などの手技は人間の手でないとできませんし、将来的にそういった手技を代替する機械が開発されたとしても正確性や力加減、トラブル発生時の対応に不安が残ります。そういったトラブルが起こったときに誰が責任をとるのか（最終的には医師になるのでしょうか...）ということも問題になります。

AI についてつらつらと書きましたが、AI を目の敵にするのではなく上手く利用しつつ共存していくことが望ましいのではないのでしょうか。

至らぬ点は多々ございますが今後ともどうぞご指導・ご鞭撻のほどどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 2025年度 紀南病院の血液内科診療

紀南病院 血液内科医長 田中 顕

私は4月から6月までは和歌山医大血液内科での勤務を経て、7月から紀南病院に着任いたしました。6月までは前任の榎野先生と天野先生の一時的な2人体制、7月からは天野先生に加え、曾我部先生と私の3人体制で診療を行いました。紀南病院での取り組みなどをお伝えできればと思います。

まず外来診療についてです。当院は毎日血液専門外来を行っております。天野先生はすでに自立されて外来診療ができるようになっており、感心いたしました。曾我部先生は外来デビューであり、事前の方針の確認や振り返りを行いながら、私の診療経験を還元できるように努めました。少しずつ自分で判断しながら、1人で解決できるようになってきております。蒸野先生には方針の相談にいつも乗って頂き、大変助かりました。入局してもうすぐ10年になりますが、自分より先輩の先生がどんどん少なくなり、毎週相談できる状況は大変ありがたいことと痛感しております。小浴先生には、私の不在の金曜に後輩の先生方の相談に乗っていただいていると伺っております。この場を借りて御礼申し上げます。その他、ER当直は紀南地区の要の病院ということもあり、内科全般の重症患者を受け入れる必要があることは非常に大変だと感じております。

次は入院診療についてです。入院患者のほとんどを天野先生と曾我部先生に担当して頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。入院患者については和歌山医大に治療を引き受けて頂くことももちろんありましたが、この半年強で新旧様々な当院未採用薬を洗い出し、当院で行える治療の幅を以前よりさらに広げることができたのではないかと思います。また、私にはどうしようもありませんが、昨今の働き方改革が全く通用しないような当院の働き方が少しは改善されれば良いなと遠い目をしながら日々考えております。

3つ目は教育についてです。専攻医の先生たちの研修が滞りなく行えるように、紀南病院を専門研修教育施設から県内3つ目の専門研修認定施設への昇格を目指しました。血液学会の症例登録を1年分すべて登録し、無事認定されました。出向となった若手の先生方の一助になると思っておりましたので、安堵しております。学生教育については従来の紀南看護専門学校に加え、今年度から和歌山県立熊野高校看護科の授業もお引き受けすることになりました。未来の看護師育成も重要な責務であると感じました。

最後は病院規模での活動です。当院着任と同時に医薬品費削減ワーキンググループの責任者を拝命(事前の依頼などもなく決まっていた笑)し、薬剤部長や管財課長とともに病院経営改善に努めました。当院もほとんどの公立病院同様に経営状況は決して良好とは言えませんが、この半年強の活動で実際に赤字の一部を減らす効果が得られました。課題もすでにわかっており、その課題に取り組むことでさらなる効果が期待できそうです。最後に一言、病院事情を全く知らない人間に初日から経営改善を命じるな！笑

以上がご報告になります。2026年度も皆さんにとって素敵な1年になりますように。

## 海南医療センター赴任後を振り返って

海南医療センター 血液内科 栩野 祐一

私は昨年6月まで紀南病院で血液内科医として勤務し、7月より海南医療センターへ異動、着任致しました。海南医療センターは、研修医期間を含めこれまで一度も勤務したことのない、私にとって全く初めての職場でした。ただ、私は自治医科大学の卒業生であり、県人会などを通じて以前からお会いしたことのある先生方が多くいらっしゃいました。そのため、着任当初からお話ししたりご相談したりできる先生方がおられることは、大変ありがたく、心強い環境であると感じております。

一方で、7月の赴任当初は、6月まで弘井先生が常勤1名体制で担ってこられた診療を、ほぼそのまま私が引き継いで交代するような状況でした。それまで勤務していた紀南病院などとは異なり、海南医療センターでは血液内科が独立した診療科ではないこと、また和歌山県立医科大学が近隣にあることなど、海南ならではの状況や文化的な側面もあり、そうした環境に対応するまでには一定の時間を要しました。そのような中でも、何とか日常業務を進めることができたのは、周囲のスタッフの皆様、そして非常勤で支えてくださっている血液内科の先生方のご支援のおかげです。多くの場面で助けていただき、心より感謝しております。

また、病院全体としてスタッフ数が減少してきていると伺っておりますが、そのような厳しい状況の中でも、病棟や外来スタッフの皆様や検査技師、薬剤部の皆様をはじめ、多くの方々が懸命にご協力くださり、日々の診療を支えてくださっています。皆様のお力添えにより、何とか日常業務を継続できておりますことに、深く感謝しております。

さらに、10月からは武田先生が復帰されました。人員面での助けはもちろんのこと、先生の熱心な診療姿勢や、海南医療センターにおける文化的背景や院内事情への深い理解には大いに支えられました。一般内科としても血液内科としても、業務負担は大きく軽減され、大変心強く感じております。

そしてこの4月からは、松本先生も新たに着任されます。また、内科全体としても、院長・副院長の退任に伴い新院長が着任されるなど、新たな体制が始まります。そのほか、呼吸器内科の常勤医が不在となる一方で、消化器内科は結果的に増員となるなど、当院は新年度以降、人員面においても新しい流れの中に入っていくこととなります。

私自身、至らぬ点が多く、皆様にご迷惑をおかけすることも多いのですが、多くの方々に支えていただきながら、日々の業務に取り組むことができいております。この場をお借りして、あらためて感謝申し上げます。

最後になりましたが、和歌山県立医科大学血液内科の皆様、そして海南医療センターのスタッフの皆様に、日頃より賜っておりますご支援に心より御礼申し上げます。2026年度も、どうぞよろしくお願い申し上げます。